

平成 26 年 9 月 29 日

南の風 81

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

最近、「ドリブルドライブモーションオフェンス」のことがよく話題に出ます。

今年の東京都のインターハイ女子の予選で、ファイナルフォーに残った、文化学園大学杉並高校が使用していた、ドリブルドライブモーションが印象に残りました。高さのあるチームに果敢にドライブで中を切り裂き、直接ショットに行ったり、ドライブからキックアウトやキックバックで外に合わせたりしていたのが効果的だったのを覚えています。

今年のミニバスの全国大会でも、ドリブルドライブモーションをメインオフェンスにしていたチームが多くありました。ミニバス時代は子どもの成長段階を考えると、ドリブルからの崩しは理にかなっているのです。なぜなら、コーディネーション能力の発達にドリブルワークは最適だからです。正しいドリプリングやドライブスキルを身に付けることは、ミニバスの段階で欠かすことができません。

モーションオフェンスは、元インディアナ大のボビー・ナイトが考案したものとされています。またデューク大のコーチK（マイク・シャシェフスキー）は常にメインオフェンスとして取り上げました。ドリブルドライブモーションは、元メンフィス大のジョン・カリパリが採用したことで広まりを見せました。

ご承知のように、「モーションオフェンス」はフォーメーションではありません。「これがモーションオフェンスだ」という決まった形はないのです。パスで崩すモーション、スクリーンを主体としたモーション、ポストの合わせを中心に攻めるモーションなど、種類は多岐にわたります。すべてのモーションオフェンスに共通することは、「**5人が有機的に動き、シュートに結びつける**」ことです。

それでは、ドリブルドライブモーションオフェンスの基本を書きます。

まずこのオフェンスを採用する場合は、下記のような能力が必要になります。

- 1 ドリブル力のある選手が2人以上いること。
- 2 身体接触を嫌がる選手が少ないこと。（経験で慣れる選手もいます。）
- 3 身長は大きくないが、判断力に優れている選手がいること。

次に指導の順序です。

- ①強いドリブル、正しい突出しをハビット化する。（スパイラルに続ける）

クロスオーバーステップやオンサイドステップによる突出し、そしてショルダーアタックなどです。毎回の練習で取り組むようにします。（1対1にも取り組みます。）

- ②5人の基本的なポジションとスペーシング（4アウトや3アウト2イン等）

ここがとても重要です。**5人がどう動き、スペースを作るのか**を選手全員に理解させやらせます。5人全体の動きを、ノーディフェンスの状態で行ってみるのです。次にダミーディフェンスを付けて、スペースを取る動きを繰り返します。選手全員に一つの動き（ドライブ）による、合わせのスペーシングを何回も練習します。

- ③5対5の中でドライブからの崩しや合わせを練習します。 続きは次号で。